

6月の砂嵐 6月の砂嵐は、記憶にありません。「二十四節気」などと、人間は心のよりどころをもうけています。でも、近年、年を追うごとに、日常は常ならず、何とはなしに喪失感に足をひきずりながら、「ではここはどこ、今日はいつですか」と尋ね歩いています。

他の生き物たちはどうしているのかな？ 真新しい者、初めての者たちは、「間違いだったのかも」なんて思いが頭をもたげても、戻る道なし。打ちのめされたり、魂はささくれ、すさんでしまう者もいるかもしれません。いちずに展開しようにも、骨ばり筋ばったりと、生きるのやとこさつとこです。スイッチが入り、いや応なく押し出された者たちが、いまここにいる「歴史の重み」を信じ耐えるけなげさに、感心します。

いつの間にやら、桑の実が熟れ、無数の生き物たちを喜ばせまき散らされ消えていきます。麦は、つべこべ言わずに枯れ上がっていきます。一つの出来事として決定的でなく、核心につらなる物事もない様です。ただ、今日も世界は、骨ばり、筋ばつたものたちで、ようやくその姿を保っています。

このたよりが届くころには、思い出したように降る雨をとらえて、人間たちも田植えを進めることと思います。(晃)



梅雨入り 上記の文章は、先週書いて、清書できなかったものです。私は、開業以来初めて、筋ばつて生育しない小松菜に、ちよろちよろと水やりしたりしました。当然、焼け石に水。露地の畑では、基本的に、生育中の野菜に灌水することはしません。苗の定植の際には、祈るように命の水を与えて、荒野に放っていたわけですが、この日照りの間、筋ばつた菜っ葉をお届けしてすみませんでした。夫に言わせると、野菜たちに「色気がない」そうで、生きていだけで精一杯だと、そういうものは発生しないのかもしれませんが。

先週も、後半には少し雨が降って、ああ、浸みいってくれたなあ、と、一息ついたのですが、植木屋さんに言わせると、2、30センチ掘ると、その下はからっから。野菜はいいかもしれないけど、樹木にはまだまだ水が足りないんだ、とのことでした。

高温と渇きが背中を押し、玉ねぎや麦の収穫が例年より10日ほど早く、本格的な雨の前の今週初めに、近隣農家の田んぼから軽トラ満載12台分の麦ワラを集め、一昨日うちの麦刈りも終わりました。とんでもなくハードな1週間で、気が付いたら、アジサイが色づいてにっこりしておりました。今年は、畑の梅がよく実っているので、ご希望の方を募りたかったのですが、「たより」が書けず手遅れとなりました。梅ジュース・梅酒を作る方いらしたら、来年のシーズン前にお声かけてみてください。



野菜セットの値上げの件 前号の「たより」に書きましたように、 HALFセット(1300円→1450円)とフルセット(2000円→2200円)、ともに、この6月より値上げをお願いします。ご理解いただきありがとうございます。(6月12日 泰子)

